

陳 述 書

2012年8月29日

石 地 優

私は福井県若狭町に住む原告の石地優と申します。福井県にはふげんを含む 15 基もの原発があります。1日でも早く原発の無い生活を望んでいた私には、5月に日本の総ての原発が停止した時はえも言えず嬉しかったです。

しかしその喜びも束の間、昨年の 3.11 福島原発事故以降多くの国民が原発の無い暮らしを望んでいるのにも拘わらず、大飯原発 3・4号機を野田首相は「国民の生活を守るため」と再稼働しました。

国民の生活を不安に陥れたのは他ならない福島原発事故のせいじゃないのか。安易に原発を推進し何の反省もないそんな国に怒り心頭です。

福井県は福島県と同じく多くの原発が立地し、交付金など原発マネーで潤い、暮らしも経済も原発無しではやっていけず、思考も行動も原発の影響を受けてきました。

そういう中で昨年3月11日福島原発事故が起きました。5重の壁があり安全といわれていた壁が次々突破されアッという間に大量の放射性物質が放出され 17 万人ともいわれる多くの福島の方が避難を余儀なくされました。ふるさとを追われ地域や家族をバラバラにされ、これから先の暮らしや健康に不安を抱きながら避難生活をされている現実に心が痛みます。

私たち福井県民は原発運転開始してから 40 年を超える程長い間原発と共に暮らしてきましたが、この間何もなかった訳ではありません。燃料棒折損事故、放射性物質漏えい事故、蒸気発生器伝熱管ギロチン破断事故、ナトリウム漏れ火災事故、二次系配管破損死傷事故など大事故寸前の事故も多く経験しています。海外での米スリーマイル島原発事故や旧ソ連チェルノブイリ原発事故など何度も反省する機会があったのですが、根本的な見直しがされることなく福島原発事故を迎えてしまいました。起こるべくして起こったといっても過言ではないと思います。

原発への不安や疑問を国や県、電力事業者に訴えてきた人は県内にも多くいます。私もその内の一人です。その声を真摯に受け止め活かしてもらえていたら福島の事故は起きなかったと思います。

私は福島事故前も後も原発を無くしたいと願う県内外の人たちと様々な取り組みをしてきました。また県内各地で署名や戸別訪問などを通じて多くの県民と対話してきました。大飯原発 3・4号機再稼働については関西の市民グループの人たちと共に

おおい町民と対話し町民アンケートも行いました。おおい町や町議会、小浜市や市議会にも再稼働しないように申し入れを何度もしました。そして県や国へも同様に要請しました。しかし国や県は私たちの訴えに真剣に耳を傾けることなく、大飯原発3・4号機の再稼働を強行しました。このような経過の中で止むに止まれず司法に判断を委ねることになりましたことをご理解お願い申し上げます。

福島事故後の原発をどうするかについて資格を設けるとすると、私は今もこれからも苦難の道を歩まれている福島の人たちが一番適格だと思います。今まで原発を推進してきた国や県や電力会社は最も不適格です。

8月に福島県楢葉町から避難されている方のお話を聴かせてもらいました。「8月10日から楢葉町に戻れるようになったが放射線量が高くて住むことはできません。若い人、子供たちは帰ってこれません。受け継いできた産業、農業、漁業が次の世代に残せない。悲しみは深すぎます。私たちが東電の原発を受け入れた代償です」。若い人から「私たちは何ができますか」との質問には「原発を無くしてほしいです。あっちで止まった、こっちで無くなったと聞くと励まされます」と話していただきました。原発を無くすことを願われている福島の人たちの思いを共有したいと強く思いました。

私の住んでいる若狭町は海あり、山あり、湖あり、川あり、田畑もある自然豊かな地域です。それらは私たちの先祖が守り受け継いでくれたものです。私にも守り受け継ぐ義務があります。私はわずかですが有機農法で米を作っています。原発事故で耕作できなくなった無念さは察するに余りあります。

若狭町では福島原発事故後、原子力のことについて話し合う協議会ができました。私も委員に名を連ねています。そんなこともあってか町内のある区の人から、原発は後々まで影響を与える問題なのでしっかり学び考える必要がある。区の会合に話しに来てくれないかと声がかかりました。表だって原発に対する発言や行動がしにくかった町民からも何とかしなければとの動きが出ています。

原発は放射性廃棄物という人類が管理できない負の遺産を生み出します。将来に遺すべきものではありません。将来の子や孫、トンボやカエルのためにも原発をなくし、代々受け継がれてきた恵まれた自然を遺していきたいと思えます。

私たちの思いを汲みとっていただき大飯原発3・4号機の運転停止を命ずる判断を心よりお願い申し上げます。